

紙等の蜂の巣状(ハニカム)の板に珪藻土を薄く塗布した消臭板
桐山 晶浩 / 株式会社宝文堂

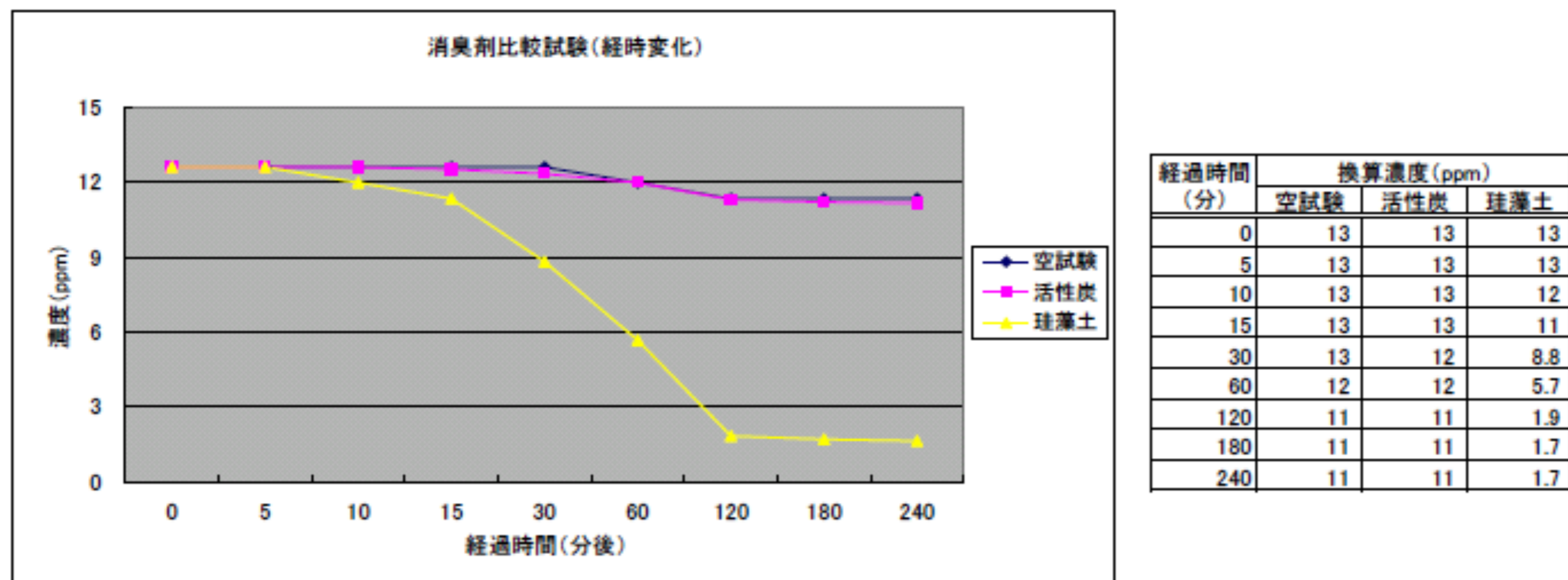


図1 (株)環境公害センターによる評価(活性炭7g、珪藻土7gの比較)

実際に外部機関の(株)環境公害センターで比較テストをした結果、従来の活性炭の消臭剤に比べ格段の評価を得ました。(図1)

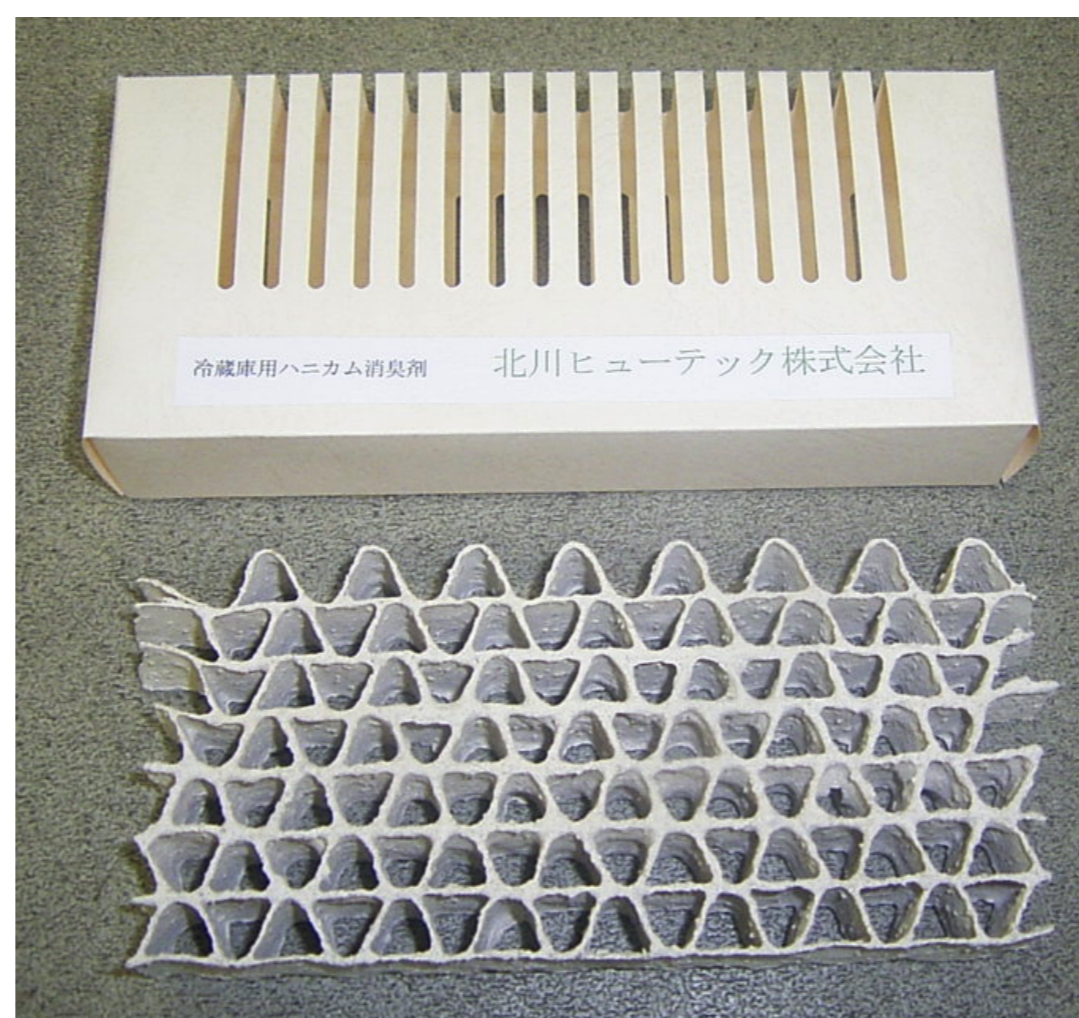


図2 企業の会社名入り粗品の紙のケースと紙のハニカム構造に珪藻土をドブ浸けして乾燥したもの

再生紙で作ったハニカムに珪藻土を付着させた消臭剤をスリット入りの紙のケースに入れてラッピングして企業用の粗品にする。この珪藻土にドブ浸けする作業は簡単で面白く、乾燥後にケースに企業名を貼ってケースに消臭ハニカムを入れ、ラッピングする作業すべてを授産施設だけで製造することを目指したいと思っています。性能はとても高く、自宅の冷蔵庫(色々の物が入っていて臭いがある場合)に入れると2、3日で臭いなくなり効果も長い、また500mm x 500mm x 35mmの消臭板を車両に入れるとまず、新車の臭いに戻り、そのあとに新車の臭いがゆっくり無くなり無臭になります(この時、車内が無臭のため車両自体のエアコン等のフィルターを新品等に交換しないとその匂いが引き立つ、また自分自身の服の臭いなどわずかな匂いが引き立つ)この大きな消臭板は吹き付け塗装で業者の方が作るものです。(金沢医療センターの検尿室兼外来便所に使用されている)

審査委員コメント

地元の資源に着目し、消臭板としての活用を模索されている姿勢を評価します。

現在は、製品化に向けた課題も多く、市場に出るまでに時間がかかることが想定されますが、今後のビジネス展開によっては幅広い分野での使用の可能性もあり、小企業(個人)発の環境ビジネス発展を期待します。